

二番茶総評

令和4年7月21日

本年度の県内産の二番茶は、生産が早く始まった前年より7日程遅い6月の初めより生産が開始され数日後には各産地が出揃いました。5月の中旬頃まで平年より気温が低く推移し、6月上旬の気温も平年並みとなり降水量も少なかったことから緩やかな芽伸びとなりました。一番茶の価格が前年より安値で終了し、二番茶のリーフとしての引き合いが弱く、ドリンク原料需要も低く価格が下げ止まらないとの予想から一番茶後の更新茶園が多く、摘採も前倒しで行うなど計画的な生産となりました。芽伸びが悪く、降雨による生産の中断や終盤には病害虫の発生により摘採を取り止めた茶園がありました。また、重油など生産コストの上昇により、採算が合わず生産を中止した工場もあり取扱数量は、前年比約40%少なくなりました。

取引状況は、買手の仕入れ意欲が弱く仕入れ量を抑える買手がみられました。価格は、前年を下回りましたが下げ幅はそれほど大きくなく、安値で安定した取引となりました。早場所が生産を終了する頃になると減産傾向が顕著となり、中遅場所でも減産が確実となりドリンク原料を中心に数量を確保する動きがみられ価格は下げ止まりましたが、平均単価は前年比20%安となりました。一番茶と同様に生産量減、単価安、生産コスト増と厳しい二番茶となりました。